

総合技術本部 HP

東京大学技術職員が行う、技術発表会・研修などの情報が随時更新されています。

<http://engineers.u-tokyo.ac.jp/>



ステートメント

<http://engineers.u-tokyo.ac.jp/statement.html>



東京大学総合技術本部

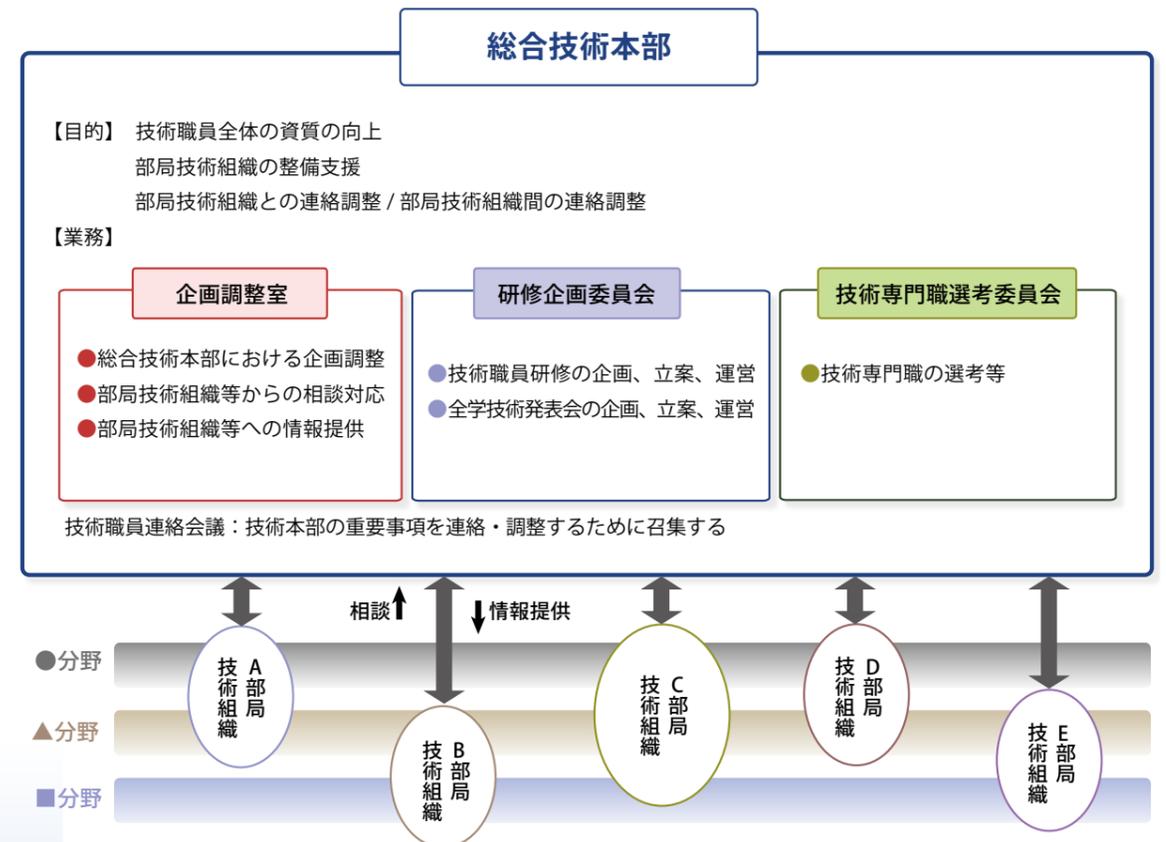
Division for Engineers Network Promotion, The University of Tokyo

東京大学総合技術本部は、2012年4月に設立されました。これは、本学の教育研究能力の一層の向上を図るために、教室系技術職員（以下「技術職員」という。）の持つ専門的な知識や技術等の向上、およびこれらの高度化への対応、世代交代に伴う従来技術の継承、さらに全学的な情報共有等の必要性から、全学横断的な技術職員の連携の場として組織されました。

総合技術本部は、企画調整室、研修企画委員会、技術専門職選考委員会から構成され、各部局の技術組織等と連携しています。活動内容は、主に総合技術本部の運営に関する企画調整、部局技術組織の整備支援、部局技術組織並びに部局技術職員の間での連絡調整、相談対応、情報交換、全学技術発表会及び全学技術研修の企画、立案、運営、技術専門職の選考等を行っています。

総合技術研究会

<http://tech2017.engineers.u-tokyo.ac.jp/>



▶技術職員連絡会議

総合技術本部の運営において特に重要と判断する事項について連絡・調整するために召集する会議です。定期的開催され、技術職員が在職する各部署から1名と企画調整室員により構成されています。

▶企画調整室

総合技術本部員により構成され、総合技術本部の運営に関する企画調整、部局の技術組織及び技術職員への情報提供、部局技術組織との連絡調整及び部局技術組織間の連絡調整、部局技術組織及び教室系技術職員からの相談対応、部局技術組織の整備支援を主に行っています。

▶研修企画委員会

技術職員が所属する部局を7群に分け、群から選出された技術職員と教員及び事務職員より構成されており、技術職員が職務に必要な専門的知識・技術等を修得し、能力・資質等の向上をはかるための研修を充実させることを目的として活動しています。

東京大学技術職員

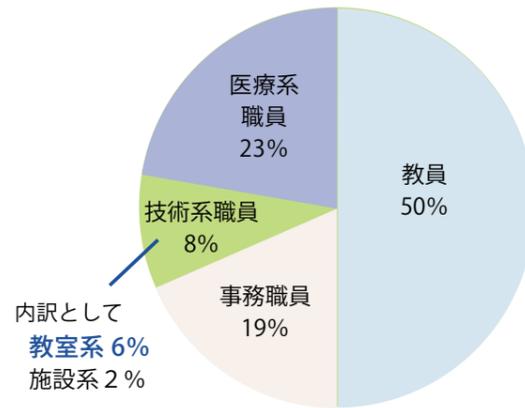
現在約570名の技術系職員が東京大学に在籍し、そのうち約460名の教室系技術職員（以下「技術職員」という。）が、25の部局・組織に所属しています。

個々の技術職員の専門は多岐にわたっています。そして、専門的知識・技術を通して教育研究を支える技術職員は、特に重要な役割を果たしています。

東京大学では、技術職員の資質向上のため、「全学的な技術職員研修」などを実施しています。

これらの研修では、講師を務める技術職員もいます。また、部局別技術職員研修では、技術発表会や技術シンポジウム等を実施し、知識の共有を図っています。さらに技術職員個々に対しては、個別研修制度を設けて、知識や技術の研鑽を積んでいます。

東京大学教職員数割合 特任、有期雇用等を除く



教職員総数 7847人

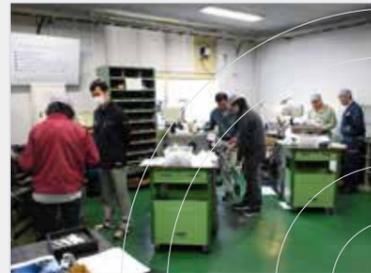
H 26.5.1 現在	人
教員	3,943
事務職員	1,475
技術系職員	573
医療系職員	1,850
その他	6
合計	7,847

東京大学HPより

全学技術職員研修（全学から参加者を募って行う集合型研修）

より高度な専門的知識と新しい技術などの修得や基礎技術力向上のために多種多様な研修が行われています。

機械工作技術研修



文化財保存関係研修



エレクトロニクス研修



分子医科学関係研修

部局別技術職員研修（部局毎に集合研修の形態で行う研修）

部局単独あるいは複数部局共催などの形態をとった技術発表会などを定期（あるいは不定期）に開催しています。

個別研修（主に部局において業務を通じ、または業務を離れて個別に行う研修）

技術部シンポジウム（理学部）



第9回 駒場キャンパス技術発表会



柏キャンパス技術発表会



チェーンソー研修（農学部）

様々な組織の中に技術職員が所属し、専門分野の仕事を行っています

<p>医学部・医学系研究科</p>	<p>医学部附属病院</p>	<p>薬学部・薬学系研究科</p>	<p>情報理工学系研究科</p>	<p>産学連携部</p>	<p>教養学部・総合文化研究科</p>	<p>社会科学研究所</p>	<p>分子細胞生物学研究所</p>	<p>宇宙線研究所</p>
<p>工学部・工学系研究科</p> <p>本学でも最大規模の技術職員を擁し、教育・研究、管理運営など広範な業務を担当しています。写真は、大型水槽を使った船の模型実験の様子です。</p>	<p>物性研究所</p> <p>研究活動推進のため、研究・教育・管理等の業務を行っています。小分け容器による液体ヘリウムの供給量は世界一で、写真はその汲出作業です。</p>	<p>理学部・理学系研究科</p> <p>教育・研究、管理など多岐に渡った業務を行っています。写真は、神奈川県三浦市で実験生物の採集の様子です。</p>	<p>生産技術研究所</p> <p>最大規模の附置研として社会や産業界と連携し、研究や技術の応用展開のために教職協働しています。</p>					
<p>農学部・農学生命科学研究科</p> <p>農学の基盤を形成する諸科学に関する世界水準の教育・研究を支えています。写真は、気象観測業務の様子です。</p>	<p>史料編纂所</p> <p>修理・影写・模写・写真の各分野で、歴史史料の複本作成、史料の保存・修理を行っています。写真は、古文書の修理作業です。</p>	<p>医科学研究所</p> <p>国内で唯一附属病院を持つ附置研究所です。研究分野・研究施設を中心に30余名の技術職員が勤務しています。</p>	<p>地震研究所</p> <p>技術部内に設置された技術三室により、観測・データ処理・実験・分析に関わるさまざまな技術業務に従事しています。</p>					
<p>大気海洋研究所</p>	<p>先端科学技術研究センター</p>	<p>総合研究博物館</p>	<p>低温センター</p>	<p>アイソトープ総合センター</p>	<p>素粒子物理国際研究センター</p>	<p>東洋文化研究所</p>	<p>情報システム部</p>	